

白木蓮の気持ち 【柴田常雄】



記念館の前の白木蓮に小さな蕾がふくらんでいます。
2年前、白木蓮の幹から枝先まで
蔦（つた）が絡まっているのに気がつきました。
蔦の根元を見ると、直径4cmもあるような太さでした。
ノコギリでやっと根元を切り離し、
白木蓮の皮に小さな根を張ってへばり付いているのを、
少しずつ切り刻んで剥がし取っていきます。
高い枝先まで巻き付いているので、
白木蓮によじ登り、枝分かれに足をかけて立ち上がると、
強い風が吹いていました。
しばらく幹にすがり、白木蓮と共に風に揺れていました。
生きている白木蓮の生命の鼓動を感じたひと時でした。

私たちが生きている中で、
いつの間にか様々なものにがんじがらめに縛られ、
いのちを細らせていることはないでしょうか。

そんな時にこの世に
解放はあるのでしょうか。

教会にさそわれ
聖書の神、イエス・キリストに出会った時
思ってもいなかった解放を体験しました。

将来に対して不安で、

目の前が真暗闇だったのに、一筋の光が灯り、
道が開けるのを見ました。
自分を蔑んで絶望していましたが、希望と使命が見えてきました。
押さえようもなく湧いてくる嫉妬や憎しみに苦しみながら、
それが消え去るのを体験しました。

「神である主の霊が、わたしの上にある。
主はわたしに油をそそぎ、
貧しい者に良い知らせを伝え、
心の傷ついた者をいやすために、
わたしを遣わされた。
捕らわれ人には解放を、囚人には釈放を告げ、
主の恵みの年と、
われわれの神の復讐の日を告げ、
すべての悲しむ者を慰め、
シオンの悲しむ者たちに、
灰の代わりに頭の飾りを、
悲しみの代わりに喜びの油を、
憂いの心の代りに賛美の外套を
着けさせるためである。
彼らは、義の樅の木、
栄光を現す主の植木と呼ばれよう。」
(旧約聖書 イザヤ書 61 章 1~3 節)

世界中に書物は無数にあっても、
The Book of Books と呼ばれるのは聖書です。
Jesus Is the Answer.
自分の中にいくら探し求めても
本当の自分は見つけれないものです。
人間の視点ではない、神の視点で書かれた聖書の中に、
イエスの中に、答えがあります。
聖書の言葉に耳を傾けてみませんか。